



第2740地区 創立／1990年9月29日 認証／1990年10月22日

佐世保中央ロータリークラブ週報

会長：南部 建 / 副会長：前田 眞澄 / 幹事：田中 啓輔

2019～2020 年度クラススローガン

**ロータリーの和（輪）を広げよう
社会（ふるさと）に貢献しよう**

週報編集 / 公共イメージ・会報委員会：井手 陽一、川島 千鶴、西村 浩輝、崎元 英伸、有吉 中

本日の出席率 82.60%：会員数 49名・出席 34名・欠席 8名・出席規定免除会員 6名・ビジター 0名
前々回の修正出席率 93.42%：出席 37名・メークアップ 0名・出席規定免除会員 6名



会長挨拶 / 南部 建君



皆様こんにちは、皆さん新型コロナウイルスには感染してないですか、世界的に流行しそうな勢いですが、先週の金曜日から日曜日まで北海道に奉仕プロジェクトの事業で行ってきました、今年は温暖化で木曜の朝まで積雪がなかったそうです、私達が着いた金曜日は吹雪で30cm位積もっていました。空港から旭川に移動中吹雪で高速道路を途中で下り一般道を走りました、金曜の夜に旭川空港ロータリークラブとの合同例会に出席しました。会場にいくと会長幹事席が用意してありまして、田中幹事が欠席だったので宮崎次年度幹事に座ってもらいました。秋山会長をはじめ旭川空港ロータリークラブの皆様から大歓迎を受け二日間大変お世話になりました。お陰様で良い交流ができました。

子ども達も雪の中大はしゃぎで大変喜んでいました、スノーモービルも体験させていただき大満足の二日間でした。土曜日に札幌に移動する時に私が旭川の久保様のお宅にバックを忘れてしまいわざわざ届けて頂き大変迷惑をお掛けしてしまいました。その為佐世保中央ロータリークラブの皆さんには予定を狂わせてしまい申し訳ありませんでした

今回の事業は子ども達に極寒の北海道を体験してもらい日本列島の北と南でこれだけ違うことを学んだと思います。今回の事業は先輩方の長年の絆があって実現することが出来ました本当に感謝申し上げます。そして今回準備から現地でのお世話をして頂きました岡委員長には感謝申し上げます。お陰様で大成でした、これからも続けていけたらと思います、ご協力頂いた皆様ありがとうございました。

Report 幹事報告 / 田中 啓輔君

1. 来 信

■ガバナー事務所より

・2740 地区ホームページ更新

①新入会員セミナー パワーポイント資料

②2020-2021 年度テーマ「ロータリーは機会の扉を開く」

committee

委員会報告

創立30周年実行委員会 井上 亮 委員長

30周年実行委員会の組織図をボックスに入れています。自分の委員会を確認してください。



ニコニコボックス

南部 建会長・前田 眞澄副会長・田中 啓輔幹事

本日の例会は長崎県赤十字血液センターの松尾所長により、**「輸血のはなし」**です。血の気の多い方はぜひ献血にご協力をお願いします。

竹本 慶三君・山瀧 正久君・岡田 文俊君

大人が雪で遊びました。スノーモービル楽しかったです。

井上 亮君・池永 隆司君・筒井 琢磨君・片桐 康利君

先週金・土・日と奉仕プロジェクトによる旭川空港 RC との交流事業に孫と共に参加させて頂きました。担当の山瀧委員長、岡委員長、お疲れ様でした。孫曰く、「心が揺さぶられる程楽しかった」そうです。

岡 光正君

1月24日から26日までの北海道旭川との交流事業が無事におわりました。長崎県と佐賀県の小学生に極寒の冬を体験させ、互いの文化に触れた「平和学習」を行いました。事業に参加した子ども達は、今回体験したことは中学生や大人になっても忘れる事無く良い思い出になると思います。会員の皆様方のご協力に感謝します。

宮崎 正典君

先日の旭川空港 RC との交流会には、小学6年生の娘と一緒に参加させて頂き本当にありがとうございました。娘は人前で話すのが苦手でしたが、何とか話していたのでホッとしました。旅行中、特に娘に気を配って頂いた井上さん、池永さんの奥様に感謝申し上げます。来年は、スノーボード教室も行いたいと思いますので、対象のお子様がいる方は是非ご参加ください。

宮崎 宗長君

長崎県赤十字血液センター所長松尾様のご来訪を心より歓迎いたします。本日の卓話、よろしくをお願いします。

本日の合計	15,000 円
本年度の累計	652,252 円



本日の卓話

長崎県赤十字血液センター
所長 松尾 辰樹 様



～ 輸血のはなし ～

昔から血液は特別視され、様々な迷信などの元にもなっていました。近代的な輸血法は1900年のABO血液型の発見以降、戦争を背景に欧米で急速に発展します。

日本最初の輸血は 1919 年に行われましたが、患者の枕元で供血者から採血し、その場で輸血をするという枕元輸血のやり方でこれが 30 年続きます。第二次大戦後、これで梅毒に感染した事件が問題になり、民間血液銀行が各地に設立されました。血液をガラス瓶で冷蔵保存すると梅毒感染を防止できるという理由からです。血液銀行は血液を買い集め輸血の 99%が売血の時代になりましたが、経済的に困窮した人が繰り返し売血を行い、これが“黄色い血液”として新たな問題になりました。輸血の効果が少ない上に、輸血を受けた人の半分が輸血後肝炎になることがわかってきたのです。そのような時に起こったのが 1964 年のライシャワー駐日米大使刺傷事件でした。輸血を受けた大使が輸血後肝炎になったことから、政府は閣議決定で売血をやめて、無償の献血制度に移行することを決めます。献血制度が確立すると輸血後肝炎は以前の 1/3 以下に減りました。さらに、1980 年代に必要な成分だけ使う成分輸血の時代になると、輸入された血漿製剤で HIV 感染が広まった、いわゆる薬害エイズ事件も起こりました。これらの反省を踏まえて、2003 年に血液法が成立し、国、地方自治体、日本赤十字社、医師のそれぞれの責務が定められ、現在、これに基づいて血液事業が運営されています。その後のウィルス検査法の進歩や副作用の解明により、日本の血液製剤は世界的にもトップレベルの安全性を保っていますが、最近、若年献血者の急速な減少という問題がでてきました。

血液が人工的に作れないことから献血制度は輸血医療を支える重要な社会的基盤として次の世代へしっかり引き継ぐ必要があります。



memo

[illegible]

SAA: 岡田 文俊君
次回例会／2月6日12:30～

